



2022・10・13(木)
縄瀬 保育園
池之上 俊江
NO. 13

地域のありがたさ

交通指導週間になると、通学路のいたる所で蛍光服の『見守り隊』が目立ちます。息子が一年生になり、今まで車で送迎が歩きになった4月。環境の変化に母である私も何かと不安だった日を覚えています。入学当初は、可能な限り途中まで歩いて見送っていました。ある日、いつもの集合場所から遠目に見えていた、男性見守り隊の方と話す機会がありました。「おはよう。今日も元気にきたな！」と、息子に声を掛けて下さり、その一言で、私の不安は安心に変わりました。この様に声を掛けて、見守って下さる方がいる事にありがたさを感じています。雨の日、登校する時間帯、急に雨が強くなって、歩く子どもがほとんどいない中でも、雨靴・カッパで必ず立っています。息子と「見守り隊のおじちゃんがいるから大丈夫」と話して、見送る事ができました。「見守り隊」は、ボランティアだから好意でしていると、聞いたことがあります。いくらボランティアとは言え、雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、ほとんど一年中、早朝に立つ事は、簡単に誰でも続けられる事ではありません。それを、地域の為・・・と時間を作って、我が子を見守って下さる方々は、私達親にとって救世主です。最後の子どもが、いつもの横断歩道を渡り終えるまで、ずっと決まった場所で待っていてくれる事に、救われる子どもも多いと思います。息子には、見守り隊への感謝やボランティアの意味を伝えていきたいと思いました。そして、私も数十年後、息子や私が救われた恩返しができるといいなと感じています。

わんぱくフェスティバルお疲れ様でした。

天気にも恵まれ、開催できた事に嬉しい限りです。わんぱくへ向けての無理な練習はほとんどなく、日頃の遊びを組み合わせ、保護者の方に披露できました。前日のバルーンをした後も「楽しかった～」と話す子ども達に安心しました。遊戯や演奏と過度な練習を一齐にすれば、揃えようとする大人の願望が、練習時間を長くしますし、子どもは嫌でも練習に付き合います。しかし、それが子ども達にとって、充実した時間なのでしょうか？以前、年長組担任の時、過度な練習をしていた事がありました。運動会が終わった次の日から、解放された様に笑顔で好きな遊びへ夢中になる子ども達の姿がありました。当時は何も感じませんでしたが、今となり、子ども達の大切な遊びの時間を、大人の自己満足の為に、奪っていたのだと気がつけました。挨拶でも話をしましたが、特にこの時期は、子ども達の個性が輝きます。年長組にとっては、この園庭でする最後のわんぱくフェスティバル。ツリーハウス、土手登り、竹馬、縄跳び、跳び箱に熱が入ります。それぞれ自分が選んだものを当日挑戦しました。今年の年長組の面白い所は、挑戦(練習)は2回まで。わんぱくに向けて様々な事に挑戦しましたが、担任が誘っても「もう、しない。」の断り返事が気持ちよい位でした。ですが、当日は自分が決めた競技を見事に披露できました。それは、自分がしたい時に、短時間で継続的に挑戦できたからです。担任の話では、大人の見ていない所で、コツコツと取り組んでいた様です。誰からも強制される事なく、自分自身で選択した種目だからこそ、楽しく自分のペースで取り組めたと思います。園で遊ぶ時間の中で、自分のしたい時間にする事も大切な事です。子どもが遊びたい(挑戦したい)時間に、その遊びができる様に毎日、所定の位置に遊びのコーナーを配置して、環境作りをしています。

わんぱくの数日前に、ツリーハウスや竹馬ができるようになった年長もいました。大人の思いは、派手をとる競技を見せたいところですが、その子は、以前からできていた別のものを選びました。自分が好きな種目は、自信をもってできます。本人の思いに寄り添う事で、その自信が今後、子ども達の力となっていくのです。わんぱくフェスティバル後も、竹馬やツリーハウスが更に盛り上がっています。これからは遊びの発展が楽しみです。

挑戦する思い

年長を中心にラキューやパズルがブームとなっています。ラキューは、手先の細やかな動き。パズルは形を見極める力が必要です。両方とも、すぐに完成するのではなく、継続的な遊びとなります。ラキューは本を見ながら、より実物に近いものを作り上げる為に、必死で組み立てます。パズルは、100ピースができた年長の女の子が150ピースに挑戦。5日間かけて完成させる子、集中して約1時間で完成させる子と様々です。互いに刺激を受けあいながら、現在は200ピースに挑戦中です。子ども達の集中力、継続する力は好きな遊びに夢中になる事で、自然と身につけていきます。新しいパズルを、短期間で完成させる子ども達の集中力・継続できる力には驚きです。更なる挑戦が続きそうです。